

協育新聞

「協育」という波紋を拡げます

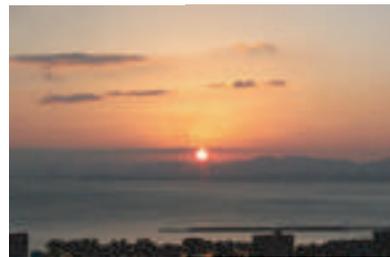
会報誌第51号

2023年12月31日発行

発行：NP0法人 大分県「協育」アドバイザーネット

令和5年もありがとうございました

理事長 中川忠宣



★令和5年も終わりました。今年のNP0法人「協育」ネットとしての活動は、上原事務局長が作成した4回の広報誌の発行と、2月に開催しました「第15回地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」でした。しかし、当「協育」ネットの目的は、会員の皆さんがそれぞれの地域・組織等で有意義な活動をしていくことを目指しています。そうした皆さんの活動をフェイスブックや会報誌を活用して情報を提供してきました。新しい年でも、当初の趣旨を目指して事務局で協議しながら活動をしていきたいと思えます。

★私的なことですが、私は風景や草木を探しながら素人の写真撮影にはまっています。この写真は令和5年元旦の「初日の出」です。素晴らしい令和5年が始まり、無事に、健康で1年を過ごせました。しかし1年が過ぎるのが恐ろしいほど早くなりました。専門家によると、子どもの頃は日々いろいろな体験をして変化に富んだ毎日なのに対し、年齢がいくほど同じような毎日の繰り返しなので短く感じるそうです。今年こそは毎日変化のある「長ーい1年」にしたいものです。



第3回「大分県生涯学習実践交流会」の参加報告

令和5年12月13日(水)

本実践交流会に中川会長と上原事務局長が参加してきました。安達さんや佐藤さんなどの会員もそれぞれの立場から参加していました。全体で120名ほどの参加者でとても参考になる研修会でした。

大分県内には、地域に根差した活動を精力的に行っている方たちがいます。この生実践交流会は、それらの優れた活動に光をあて、その事例を基にした 交流の中で参加者同士が学び合い、新しい仲間とのつながりをつくることにより、今後の活動に に向けた意欲を高めるとともに大分県全体の生涯学習の推進を考える機会とすることを目的に開催されました。

発表された事例は6事例でしたが、私たちが参加した部会は「人づくり」を目的とした活動事例で、以下のとおりです。どの取り組みも「我が町に出来るといいなー！」と思うものばかりでした。

- ① 溝部学園短期大学生と協働して、地元「豊岡地区」の歴史 や自然などの地域の特色を学び直し、子どもや若い世代に伝えていく日出町豊岡地区婦人会の活動
- ② 地域と協働して、青少年(特に小学生)を対象にした「水泳教室」「防災キャンプ」「通学合宿」等、の多様な講座を実施した日田市大津留公民館の活動
- ③ 活動費0円から立ち上げて、地域の協力・支援を受けながら、地元の大分東高校の生徒たちの活動をつくっていく「高校生のためのサードプレイス」、子どもたちの平日の居場所づくりや休日のボランティア活動等を企画・運営する未来応援コミュニティ b-room (ぶるーむ)の活動

このような素晴らしい活動の背景には、企画・運営するスタッフの力とともに、地域にある様々な教育機能(住民や団体・学校等)とのネットワークの重要性を感じました。最後の大分大学の岡田教授の助言では「『いい事例を聞いた』で終わるのではなく、持って帰って地域のネットワークを作ること、そして、それぞれの活動を一步一步広げるエネルギーとして欲しい。また、こうした活動が単年度で終わることなく、継続していく工夫が大切です。」と締めくくりました。

私たちの「協育ネット」も、会員の皆さんが、それぞれの地域でネットワークを広げて楽しみながら活動をしていくための仲間として繋がっていきたく感じました。



(第53回 大分県「小道研」授業研究会の様子)

「教員4年目の今、感じていること」

氏名 近藤 嵯理 佐伯市立八幡小学校勤務

私は有難いことに大学生の頃から協育アドバイザーネットの研修会にお手伝いとして関わり、今では会員として諸先輩方の実践に触れ、社会教育・生涯教育などの重要性について学びを深めることができています。

そんな教員4年目の今、感じていることは3つあります。1つ目は、自己研鑽の大切さです。今年、大分県「小道研」授業研究会の授業者に立候補しました。立候補した思いは、他教科での答えを導く学習ではなく、答えがない道徳だからこそ伝えたいことが子どもたちの心に残るのではないかとことです。授業を通して伝えなかった思いは、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことも理解し、自分と異なる意見も大切にしようということです。教員をする中で自分の意見を押し通そうとする子や友だちの意見に従って苦しんでいる子など多く見てきました。私自身のこれまでを振り返ってみても、自分の意見を相手に言えない時もありましたが、自分の意見を伝え相手の意見も聞き合った時のほうがよりよい物を作れ、もっと良い関係にもなったと感じています。そしてこのような考え方は、大人になっても大切です。その大切さが授業を通して、子どもたちに伝わっていれば嬉しいです。

2つ目は、社会教育の大切さです。私は学生時代から県のボランティア活動や公民館が主催するイベントなどに多く参加してきました。その中で感じたことは、学校とは違う居場所や繋がりができるということです。子どもにとって学校は小さな社会です。その中で全員が楽しむことができればいいですが、そうとは限りません。そんな時、公民館で出会った他校の友だちや、地域の方々の存在に救われる子も多くいると思います。教員になった今、学校教育ではできない教育が社会教育にはあると痛感しています。学校とは違う居場所での経験が、自分の夢に繋がることもあります。学校教育、社会教育の両方の良さを知る自分だからこそできることはないかを今後も模索していきたいと考えています。

3つ目は、協育アドバイザーネットの会員で良かったということです。教員をする中で、どうしても学校だけで何でも解決しようとしています。ですが、学校だけで子どもを教育するのではなく、家庭・地域と協力しながら教育する必要があるということです。実際、自分が勤務している学校では地域の方に昔遊びを教えてもらったり、九九を覚える際にサポートに入ってもらったりと地域の方の協力で成り立っている学習活動が多くあります。そして、家庭との連携がどうしても置いてけぼりになることもあります。そんな時にどう家庭を巻き込むのか、地域との連携の幅広さなどを協育アドバイザーネットの研修などで学ぶことができました。狭い視野で子どもと関わるのではなく、広い視野で色々な方と協力して子どもを育てようと感じています。そして、これからも協育アドバイザーネットでの諸先輩方の思いや実践に触れ、学ぶことで教員としての自分の視野も広げていきたいです。

事務局よりお知らせ 会費納入のお願い

協育ネットの活動は皆様の会費で行っています。年会費の納入をお願いします。振込先は下記口座へ
 郵貯 記号 17220 番号 4866821 (トクヒ)オオイタケンキョウイクアドバイザーネット

広報部よりお知らせ

協育ネット会員の皆さん2023年はどんな年でしたか？広報部の上原は会員の皆さんの所にはなかなか取材に行くことが出来なかったのが心残りです。個人的には娘が結婚して親の役目が終わったかな〜と、コロナワクチンも先日7回目の接種をしました。(涙)
 2024年は精力的に取材活動をしたいと思います。

